

Liveable Well-Being City Indicator (LWC指標)に基づく

地域の幸福のシナリオ事例集

2022年10月

デジタル庁

一般社団法人スマートシティ・インスティテュート

本資料の利用目的

■「デジタル田園都市国家構想」では、地域の個性を活かしながら、Well-being向上と持続的な発展を実現する手段として、LWC指標の活用が求められています。

■「LWC指標利活用ガイドブック」の説明の通りLWC指標の活用には、客観データに基づく都市の現状を表す環境の因子と、主観データに反映される市民の認識や期待を表す心・行動の因子の繋がりを把握することが重要です。

■その繋がりに、自治体だからこそ持ち得る地域独特の情報や文化も踏まえ、地域での取り組みが、どのように市民の幸福につながるかの仮説をたて、それをストーリーとして可視化することで、市の政策・施策の議論にご活用頂けます。

■本資料には、シナリオ作成の際に参考としていただける仮説事例を収集しております。自治体毎のシナリオ作成にお役立てください。

幸福のシナリオ事例集 目次

1. 本資料の利用方法

- データ分析を踏まえ、幸福のシナリオ（仮説）を作成します
- サービスを受け取る市民の生活を想像し、幸せの因子の繋がりを可視化します

2. 幸福のシナリオの具体的事例

- | | |
|---|------------------------------|
| ① <u>地元農産物の地域内消費による域内経済の好循環</u> | <u>（作成：スマートシティインスティテュート）</u> |
| ② <u>観光DXや地域通貨の導入による域内経済の好循環</u> | <u>（作成：スマートシティインスティテュート）</u> |
| ③ <u>医療データベースの構築が可能とする健康促進</u> | <u>（作成：スマートシティインスティテュート）</u> |
| ④ <u>自然環境との共生に着目する都市の事例</u> | <u>（作成：スマートシティインスティテュート）</u> |
| ⑤ <u>歴史・文化・遺産等に着目する都市の事例</u> | <u>（作成：スマートシティインスティテュート）</u> |
| ⑥ <u>多様な人々との共生に着目する都市の事例</u> | <u>（作成：スマートシティインスティテュート）</u> |
| ⑦ <u>「デジタルグリーンシティ」によるWell-beingの実現</u> | <u>（作成：前橋市）</u> |
| ⑧ <u>文化活動に参加することによる生活満足度の向上</u> | <u>（作成：スマートシティインスティテュート）</u> |
| ⑨ <u>アートによるまちおこし・地域文化の伝承</u> | <u>（作成：スマートシティインスティテュート）</u> |
| ⑩ <u>民間取組事例：発達支援を通じた子供のWell-Being向上</u> | <u>（作成：スマートシティインスティテュート）</u> |

3. LWC指標とKPIの連携事例

- 参考例①
- 参考例②

1. 本資料の利用方法

2. 幸福のシナリオの具体的事例

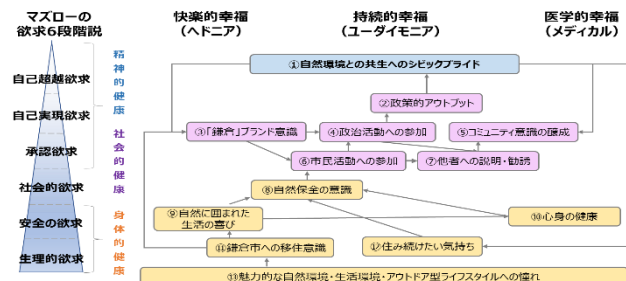
3. LWC指標とKPIの連携の事例

データ分析を踏まえ、幸福のシナリオ（仮説）を作成します

標準LWCIダッシュボード



幸福のシナリオ・ライブラリー



オプション分析・ワークショップ



セカンドレイヤー（基礎自治体の固有データ（市民意識調査等）＋民間データ）

ファーストレイヤー（全国一律オープンデータ＋主観的幸福感のアンケート調査）

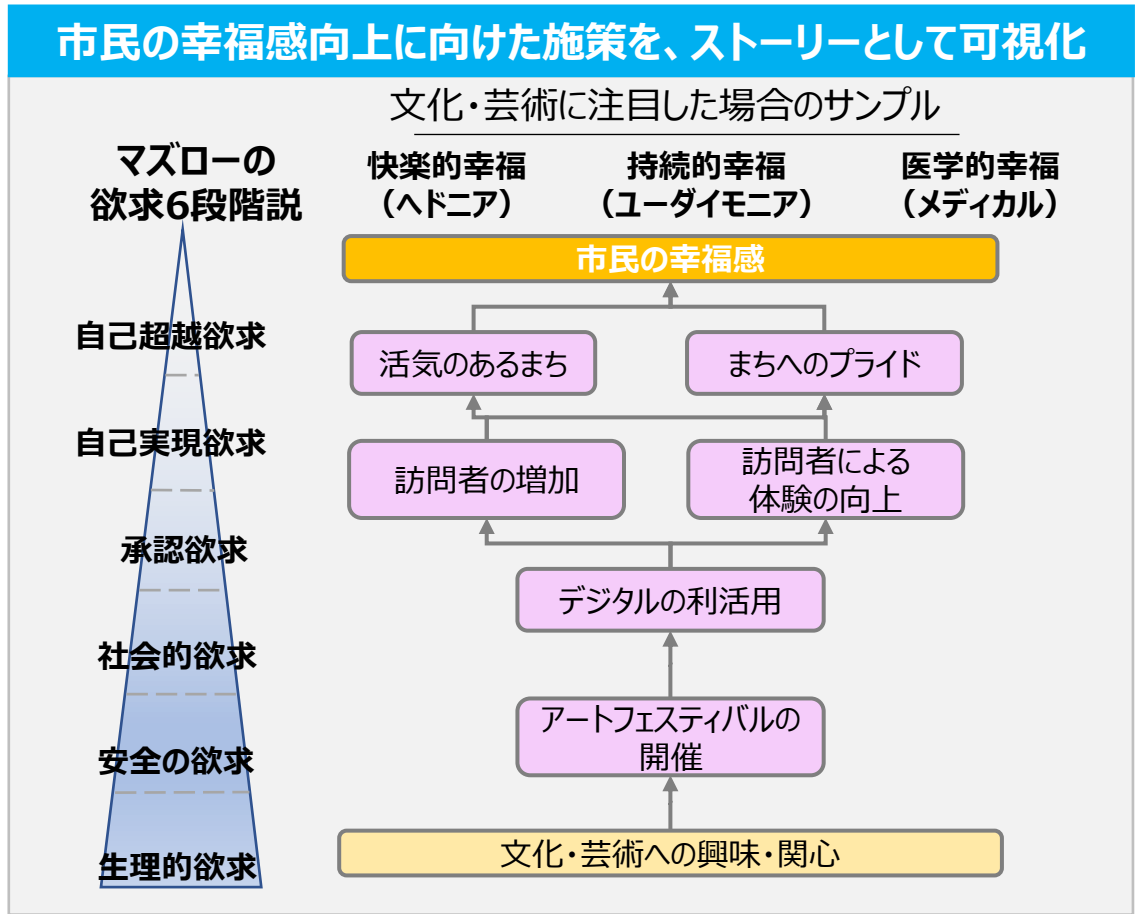
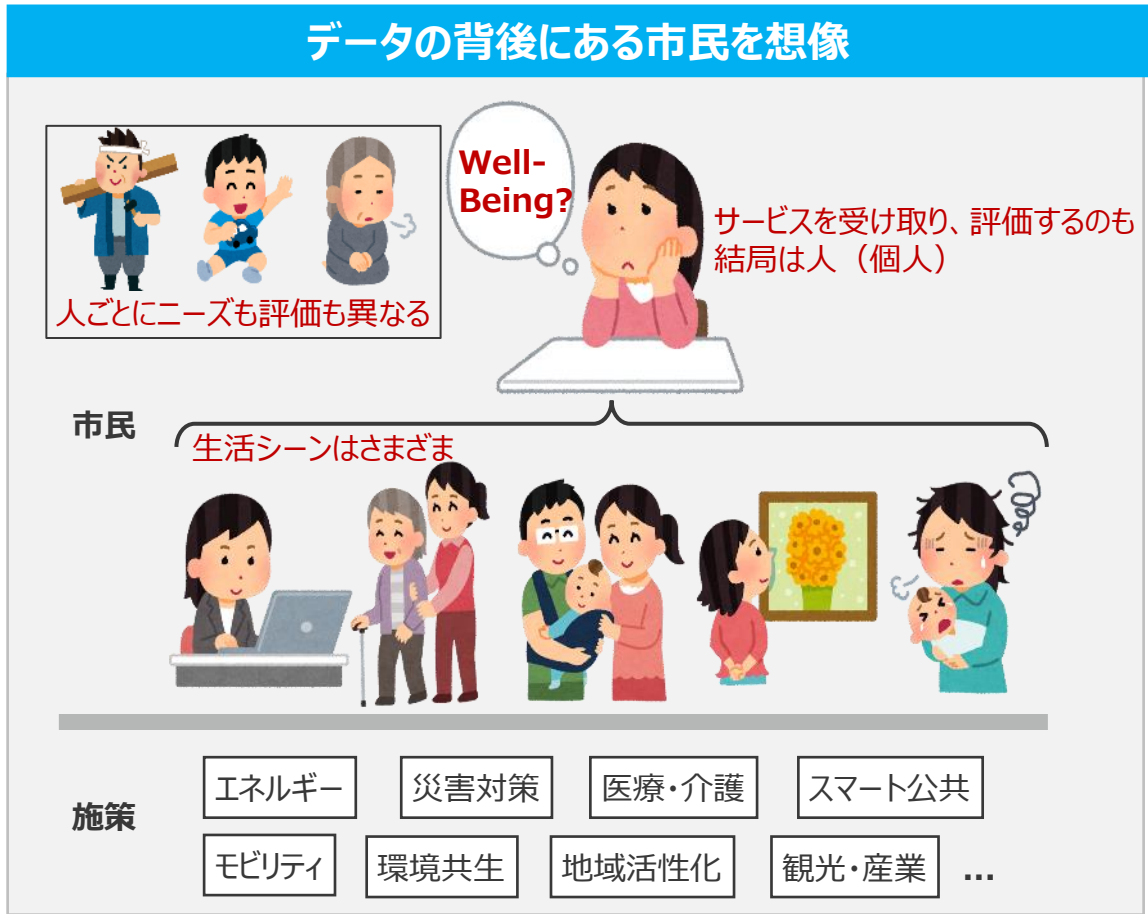
居住環境 公共空間 安全安心 自然環境 移動 買物・食糧 医療健康 介護福祉 子育て
義務教育 高等教育 地域との
つながり 雇用

＋

国レベルのマクロデータ（日本全体・都市間比較・国際比較等）

サービスを受け取る市民の生活を想像し、幸せの因子の繋がりを可視化する

- 市民の幸福感向上に向けた施策立案には、幸福のストーリーの可視化が有効です。
- 本資料では、LWC指標を用いて絞り込んだ幸せの因子から、住民の幸福感向上につながるストーリーについて、具体的事例をご紹介します。



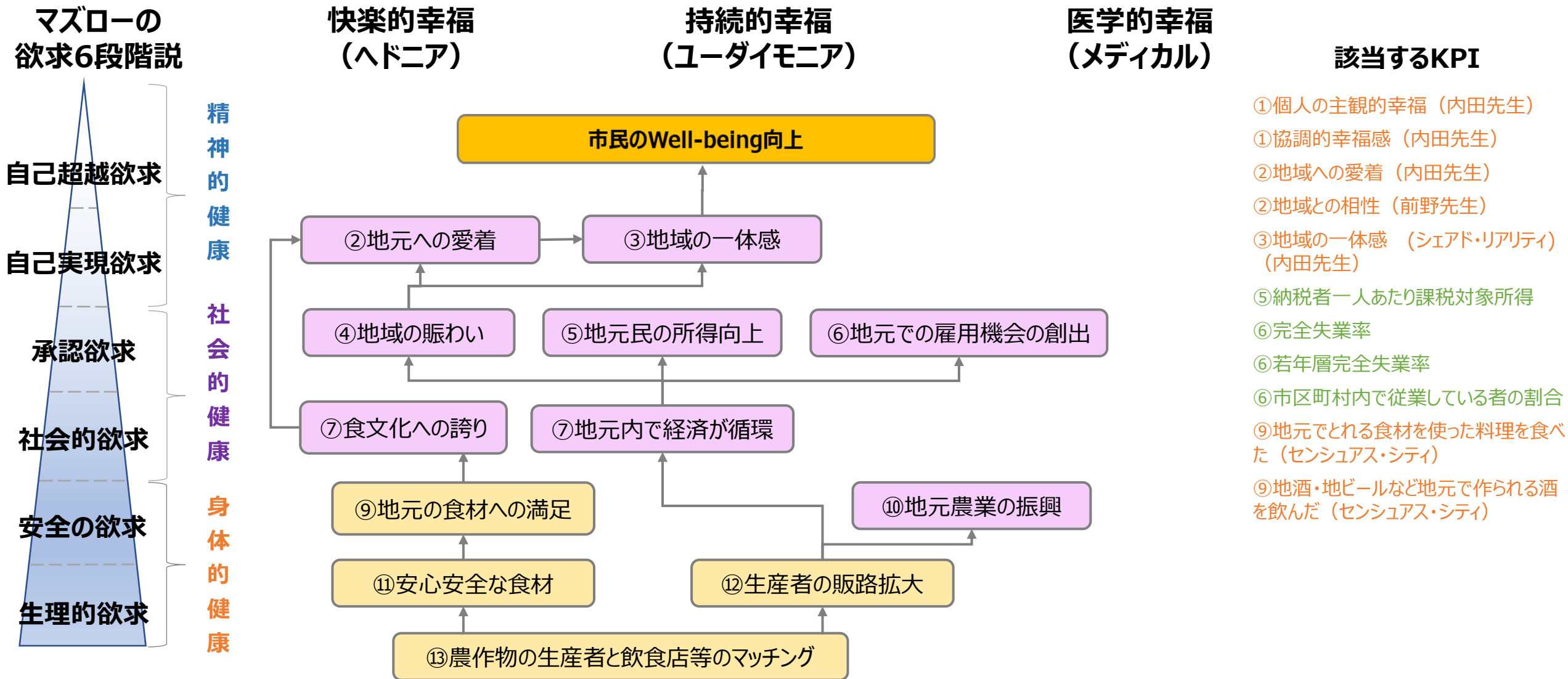
1. 本資料の利用方法

2. 幸福のシナリオの具体的事例

3. LWC指標とKPIの連携の事例

① 地元農産物の地域内消費による域内経済の好循環（SCI-J作成の仮説）

凡例 緑色：客観
橙色：主観

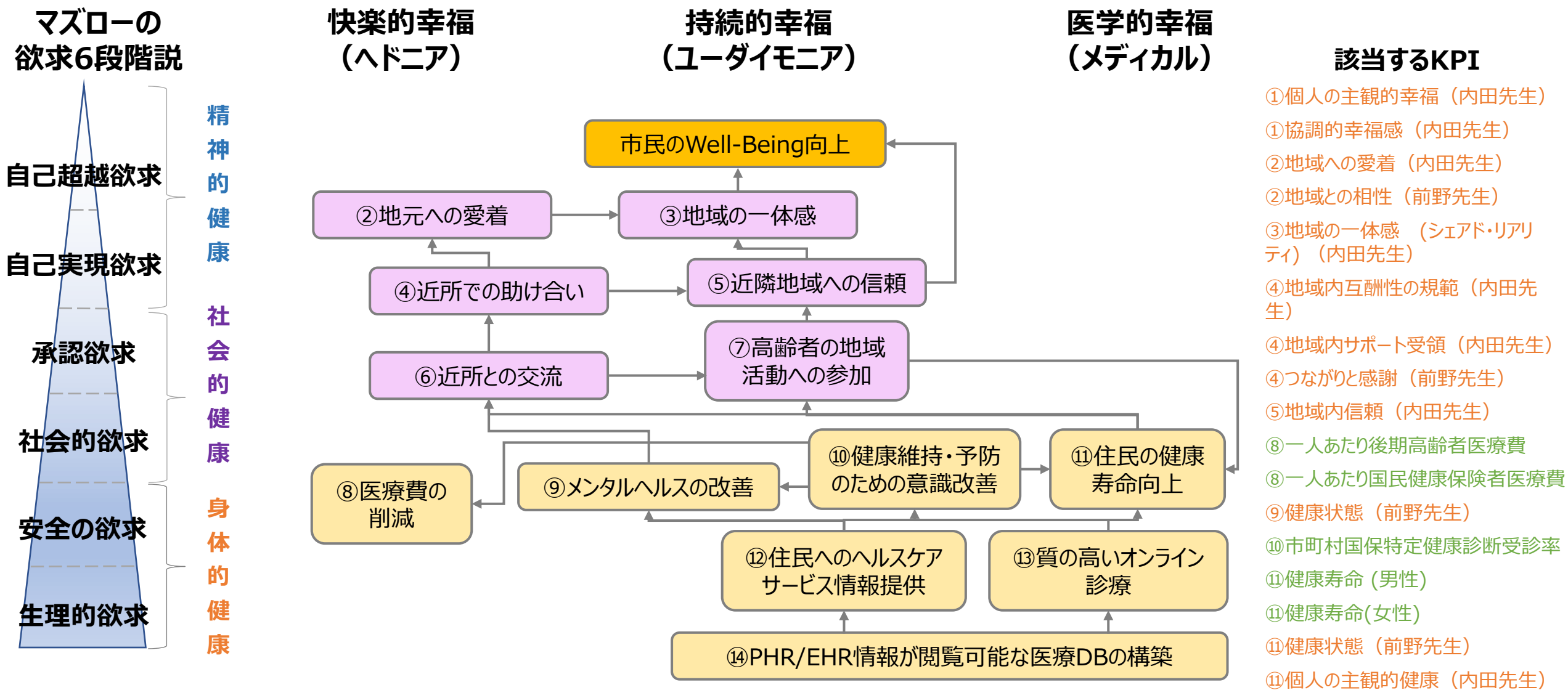


凡例 綠色：客觀
橙色：主觀



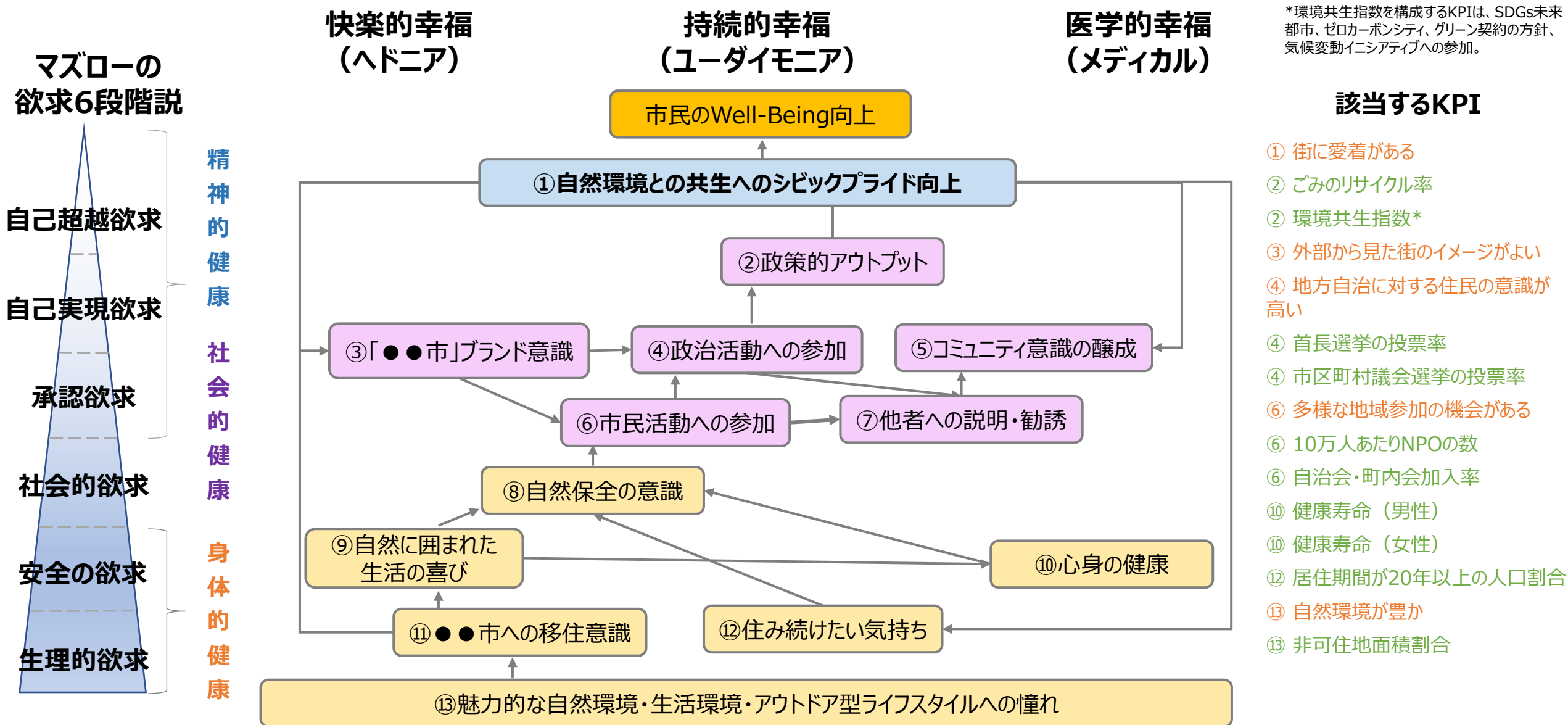
③ 医療データベースの構築が可能とする健康促進（SCI-J作成の仮説）

凡例 緑色：客観
橙色：主観



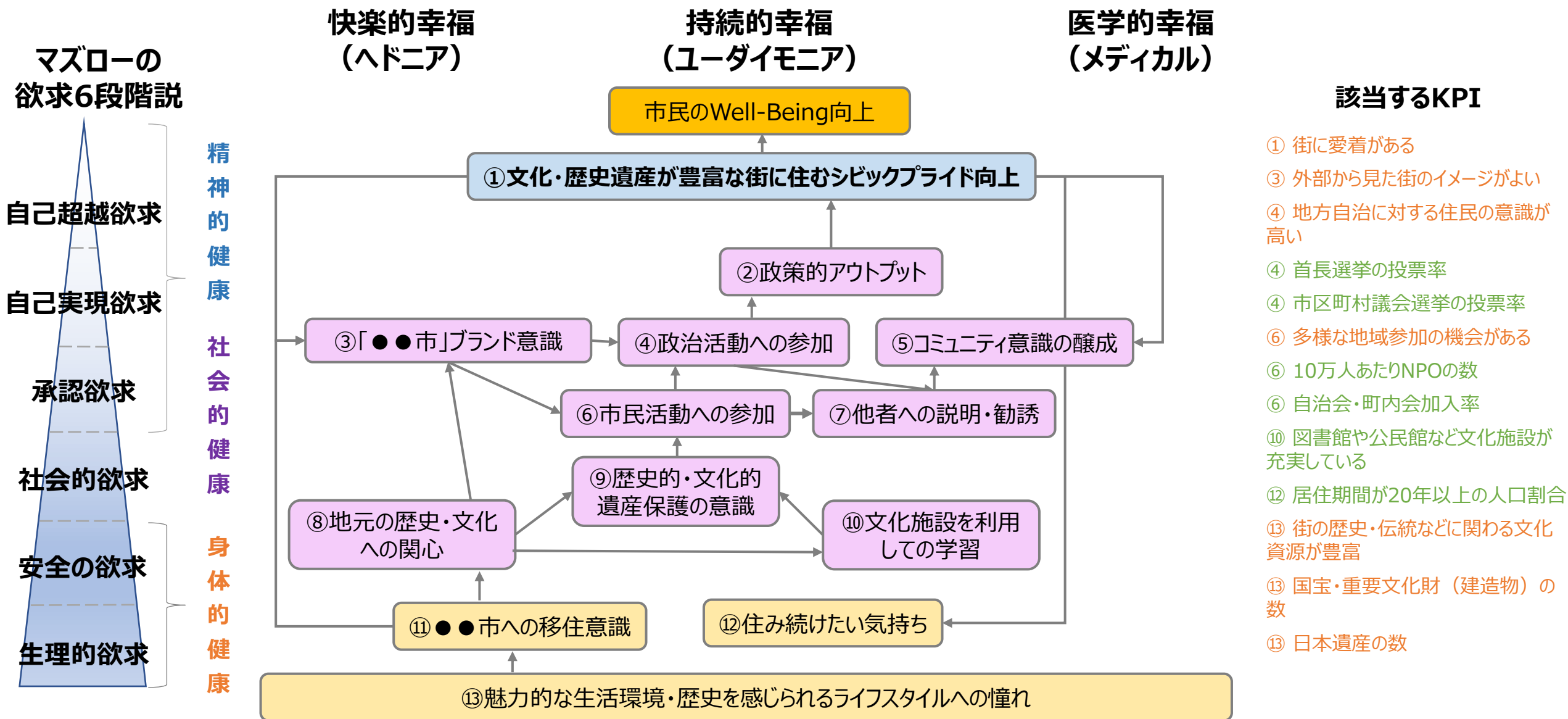
④ 自然環境との共生に着目する都市の事例（SCI-J作成の仮説）

凡例 緑色：客観
 橙色：主観



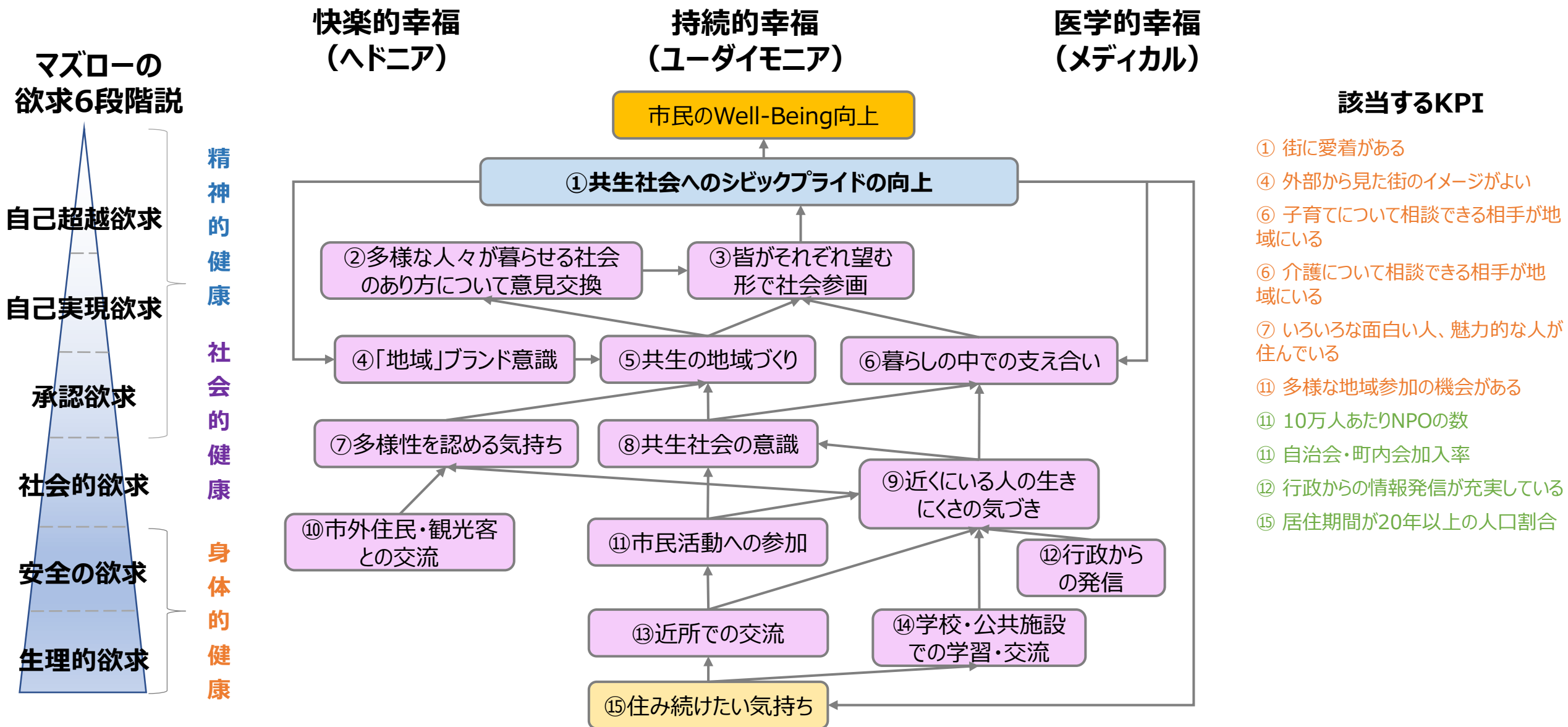
⑤ 歴史・文化・遺産等に着目する都市の事例（SCI-J作成の仮説）

凡例 緑色：客観
橙色：主観



⑥ 多様な人々との共生に着目する都市の事例（SCI-J作成の仮説）

凡例 緑色：客観
橙色：主観



⑦ 「デジタルグリーンシティ」によるWell-beingの実現（作成：前橋市）



⑧ 文化活動に参加することによる生活満足度の向上（SCI-J作成の仮説）

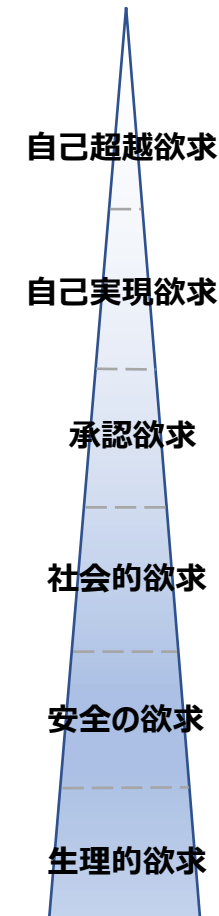
瀬戸内国際芸術祭の満足度調査

- 岡山大学が瀬戸内国際芸術祭が開催される島々に暮らす住民の幸福度を調査。島民を対象とした生活の満足度等に対するアンケートを実施（日本経済新聞記事「瀬戸芸、生活満足度高める 岡山大・ベネッセ、島々調査の中間報告」より）。
- 結果、52.5%が人生に対する満足度が改善したと回答。芸術祭に参加する人は参加しない人より主観的健康や他人への信頼感等の割合が高く、芸術祭への参加が社会資本と相関性があるとしている。
- 本研究の結果として、地域の芸術に関する活動が健康に良い影響をもたらしていると結論付けている。



<https://setouchi-artfest.jp/visit/official-tour/>

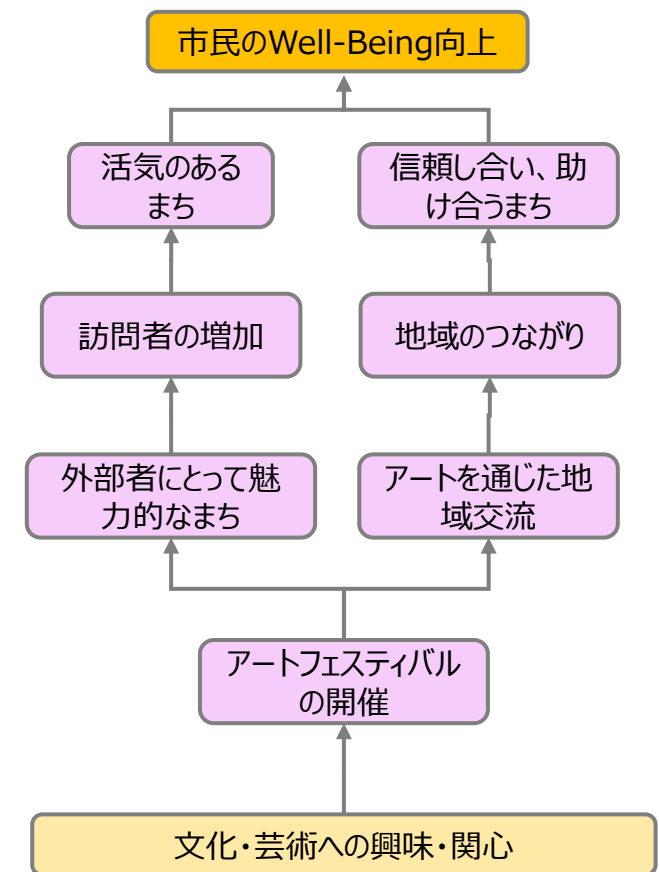
マズローの 欲求6段階説



快楽的幸福 (ヘドニア)

持続的幸福 (ユーダイモニア)

医学的幸福 (メディカル)



⑨ アートによるまちおこし・地域文化の伝承（SCI-J作成の仮説）

「ベップ・アート・マンズ」大分県別府市

- 「ベップ・アート・マンズ」は、文化や地域活動に対する市民の主体的な参画を促進し、別府市における芸術文化の振興、活力あふれる地域の実現を目的にする市民文化祭。
- 更に、毎年1組のアーティストを招聘し、地域性を活かしたアートプロジェクトを展開する個展形式の芸術祭「in Beppu」も開催。2021年は、『廣川玉枝 in BEPPU』。
- NPO法人「BEPPU PROJECT」がプロデュースし、別府市、地元の企業、業界団体、大学等が参画している。
- 過去の「ベップ・アート・マンズ」の評価では、来場者は目標を上回り、「アートの町・別府」のイメージが浸透しているとの結果がでている。

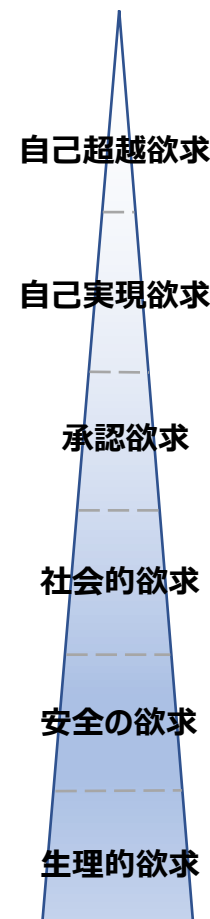


<http://www.bepuproject.com/work/3180>



<https://twitter.com/konyokun/status/1485795037720244225?s=20&t=wcQVAqwFXz6AbYsO6AHDSQ>

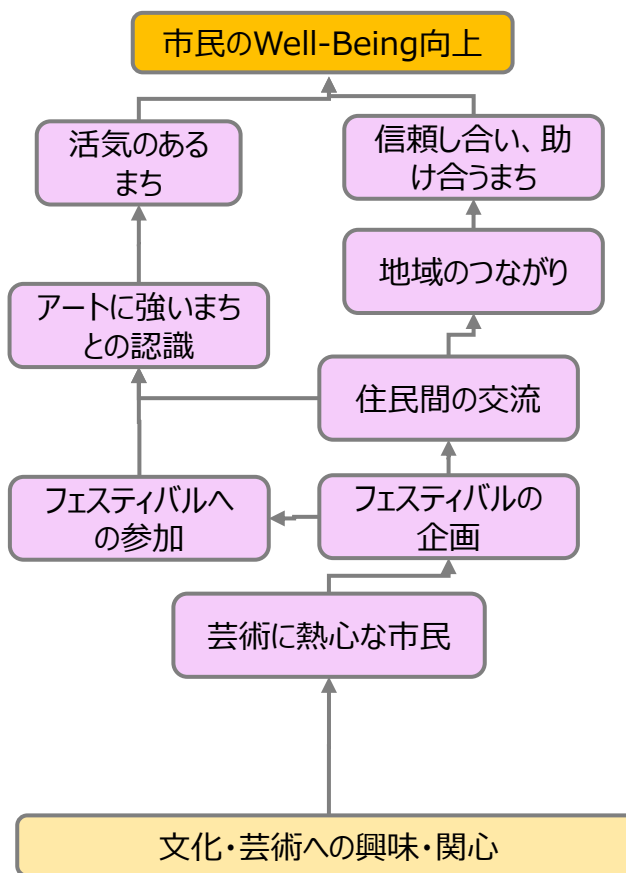
マズローの 欲求6段階説



快楽的幸福
(ヘドニア)

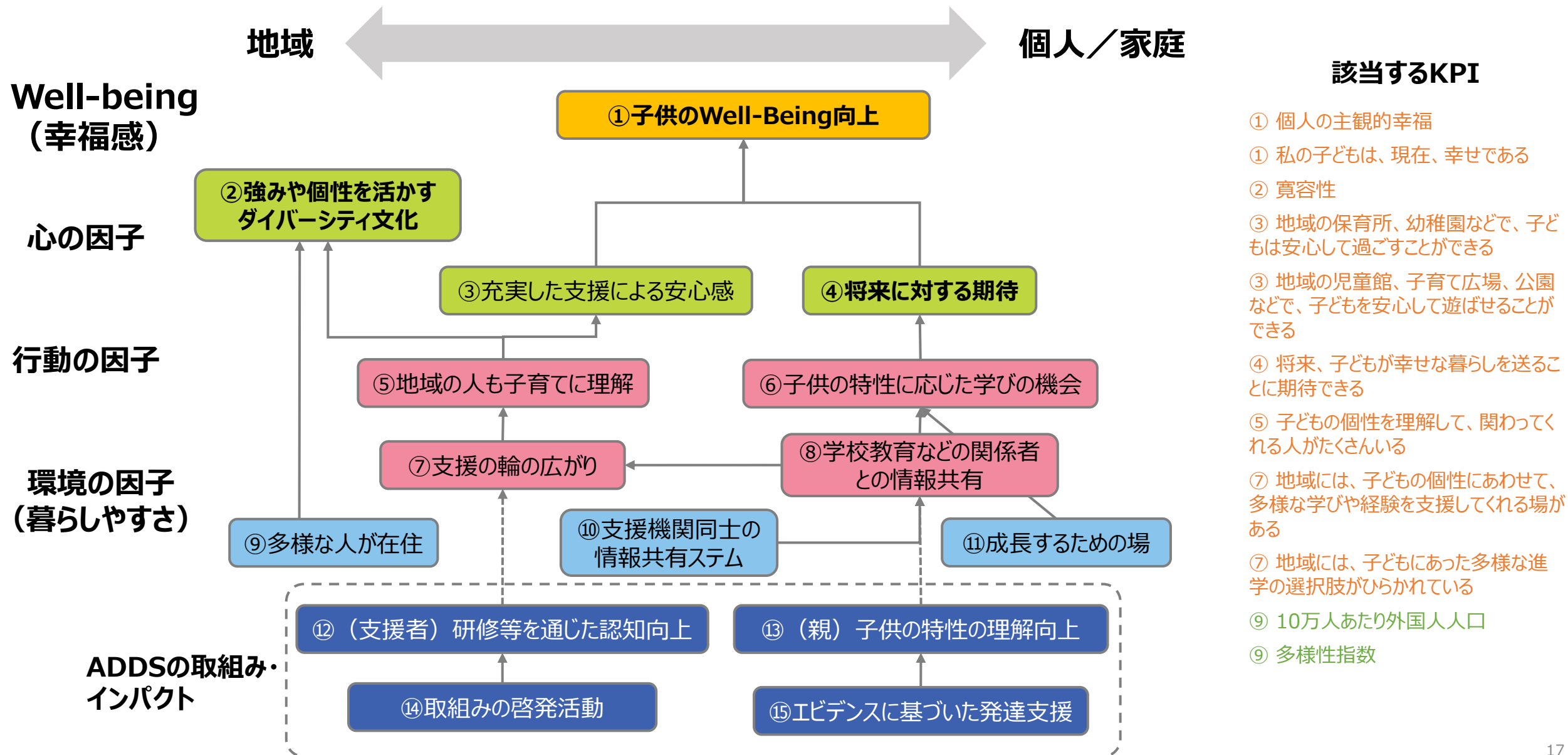
持続的幸福
(ユーダイモニア)

医学的幸福
(メディカル)



⑩ 民間取組事例：発達支援を通じた子供のWell-Being向上（SCI-J作成の仮説）

凡例 緑色：客観
 橙色：主観



ご参考：発達支援に取り組む特定非営利活動法人ADDS



発達支援が必要なすべての人が
自分らしく学び希望をもって生きていける社会をともに実現する

特定非営利活動法人
ADDS

所在（本部）
東京都杉並区荻窪
5-16-14カパビル5F

WEBサイト：
<https://adds.or.jp/>



支える

障害児通所支援事業

親子共学プログラ「べあすく」



オンライン発達相談
KIKOTTO

LINE 気軽に相談 / zoom kikotto 相談

育てる

支援者育成事業

セラピスト認定事業
発達障害体験ワークショップ



調べる・創る

研究・開発事業

療育支援アプリAI-PAC
事例研究アプリ AI-PAC LAB.

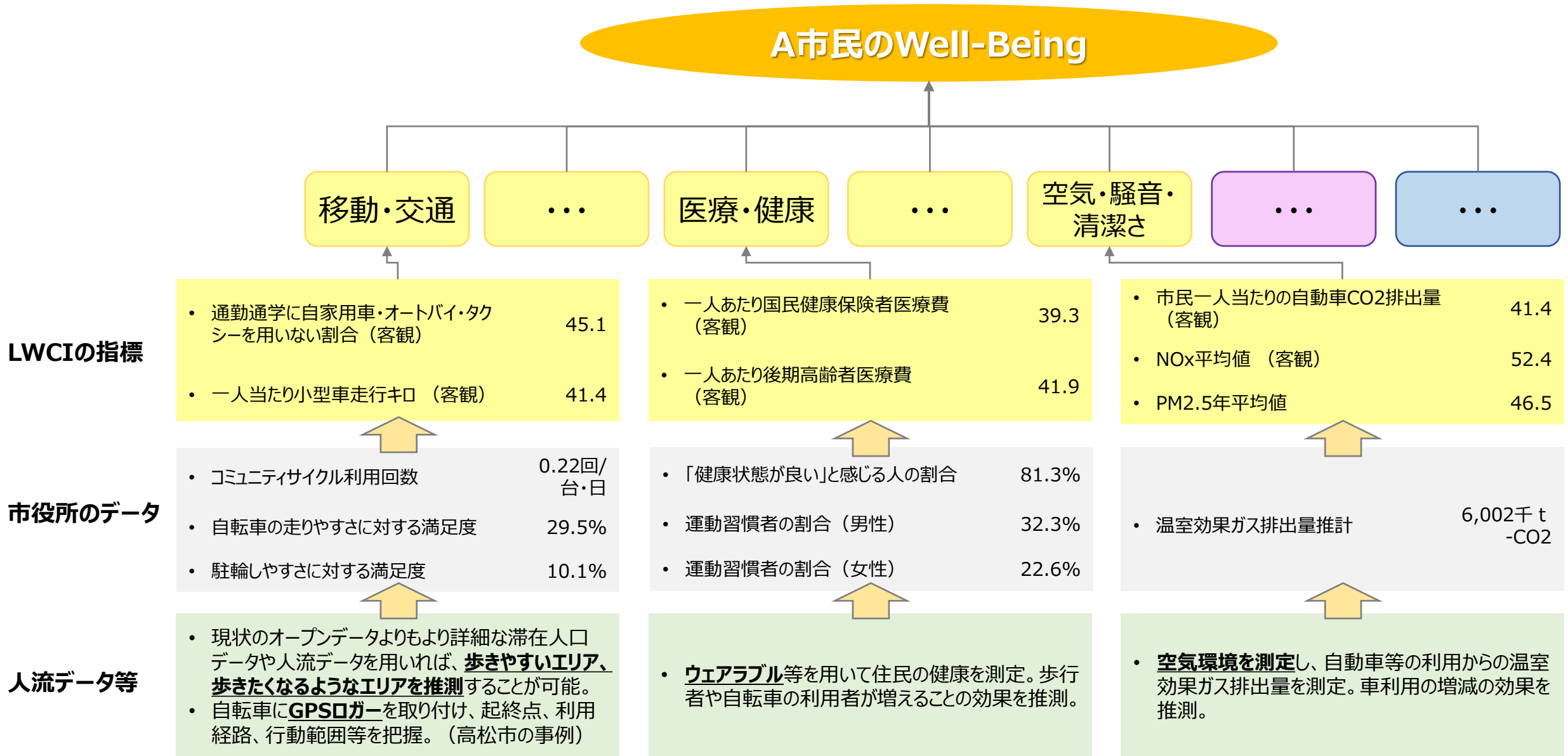


1. 本資料の利用方法

2. 幸福のシナリオの具体的事例

3. LWC指標とKPIの連携の事例

参考例①：ウォーカブル（歩く）＆バイシクラブル（自転車）政策により、空洞化する都心部に人の流れや賑わいを取り戻す



参考例②：子育ての課題を、多世代交流施設を設置することで解決へ導く。スタートアップによる補強策

B市民のWell-Being

子育て

...

...

地域との
つながり

...

...

多様性

- LWCIの指標**
- 保育園や幼稚園が充実（主観） 46.6
 - 保育所距離1km未満の割合（客観） 45.9
 - 可住地面積当たりの幼稚園数（客観） 45.2
 - 子どもを遊ばせる場所が多い（主観） 48.5

- 子育ての相談相手がいる(主観) 49.3
- NPO数(客観) 49.6
- 面白い・魅力的な人が住む(主観) 49.6

市役所のデータ

- 子育てしやすい街と思う保護者の割合 54.4%
- 保育所等の待機児童数 259人

- 放課後児童クラブの入所希望児童（潜在ニーズを含む見込み）に対する入所出来た児童の割合 77.3%
- 企業・NPO法人等が参加した安全・安心ネットワーク数(団体) 40

人流データ等

- お母さん世代（30代女性）の人流データを活用し、保育所や幼稚園などの真に必要な場所を特定。

- お母さん世代（30代女性）の人流データを活用し、学校が終わる午後の時間帯において子育て家庭が滞留していると推測される地域に、NPOの運営する多世代交流施設を設置。

一般社団法人スマートシティ・インスティテュート
事務局（LWC指標担当）
sci-japan_lwci@murc.jp